

「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および
活用のための体制整備に資する研究（5）」

分担研究者 木村 充（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター）

研究要旨

CIDI（統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。本分担研究では、アルコール使用障害患者に対してのこの研究班では、フィールドテストを行うことにより、研究班全体でのCIDI-5の妥当性を検証することを目的としている。今年度は、アルコール使用障害の患者に対して構造化面接を行い、昨年度から引き続いて計20名のデータを集めることができた。

A. 研究目的

CIDI（WHO 統合国際診断面接）はWHOによって開発された精神疾患の包括的な診断を行う構造化面接である。精神疾患の国際疾病分類がICD-10からICD-11に変更されたことに伴い、CIDIは第5版(CIDI 5.0)に改訂された。我が国で疫学研究を行うにあたって、日本語版のCIDI-5を開発することは、海外との比較や国際共同研究を行う上で重要であると考えられる。この研究班では、CIDI-5の日本語版を作成しその妥当性、信頼性を確保することを目標としている。本分担研究では、アルコール依存症の患者群に日本語版CIDI-5を適用したフィールドテストを行うことにより、その妥当性を検証することを目的としている。

B. 研究方法

西らによって翻訳されたCIDI-5日本語版を用いて、アルコール使用障害の患者に対して構造化面接を行い、その妥当性を検討する。対象は、久里浜医療センターにアルコール使用障害のため受診した患者20名であり、各被験者に対して、CIDI 5.0および精神科医あるいは臨床心理士によるDSMチェックリストを用いた面接を実施した。本研究の実施については、久里浜医療センター倫理審査委員会にて承認を得た。

C. 研究結果

前年度から引き続き、本研究班のWeb入力システムを用いて、計20名のアルコール使用障害の患者を被験者としてCIDI-5.0を施行した。被験者は、入院中の患者が19名、外来（デイケア）受診中の患者が1名であった。被験者の性別は男性12名、女性8名であり、平均年齢は47.9歳（最小21歳、最大68歳）であった。

D. 考察

主に入院中の20名のアルコール依存症患者を対象に、CIDI-5.0の面接の実施を完了することができた。最も高齢の被験者は68歳であったが、これは面接施行が困難になる認知機能低下がある者を除外した結果であると考えられる。

E. 結論

CIDI-5の開発は、今後の疫学研究等の基盤として重要なものであり、患者に対するテストを行うことでその妥当性を検討するためのデータの収集ができた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし

2. 学会発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2 実用新案登録

なし

3. その他

なし